

社会科部会

研究主題 社会的事象を広い視野からとらえ、
よりよい生き方を考える生徒の育成

1 主題について

社会科における「公民的資質の基礎を養う」ことについて、一面的な考察・判断に陥ることなく、多面的・多角的な見方や考えから課題追求することをねらいとし、本主題を設定した。また、新学習指導要領の移行に合わせて、来年度は新しい主題にすることを確認した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定	10月26日	第2回総合研究会（下川沿中） 授業研究会・新研究主題協議

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成24年10月26日（金）
- ・単元名 3年「国の政治のしくみ」
- ・会 場 下川沿中学校
- ・授業者 畠山 久美子

① 授業者から

- ・新しい教科書の付録CDにある裁判員制度を使えば、子どもたちが考えられる内容だと思った。子どもたちにとっては供述は難しい内容だった。
- ・子どもたちには事前に家で考えさせ、グループで協議し判断させ、疑似体験させることができた。時間がなくて、無罪推定の原則の意義がやれなかったのが悔やまれる。
- ・子ども向けのホームページが多くて活用できそうだった。
- ・本校の生徒は、人前で話すのが苦手な子が多い。「伝え、磨き合う生徒」が生徒像であるが、少し空回りしているかもしれない。



【論告・求刑、弁論、最終陳述】

② 協議

- ・裁判を経験していない生徒なのにイメージ力がある子どもたちだった。
- ・教師が裁判長となってズバッと判決を出す。子どもたちが裁判員で判決を出す。それを対比させればおもしろい。
- ・しゃべれない生徒がいるので、班で話し合う必要があった。そして、全体で話し合う必要があった。全体を高め合うのは全体で。全体で話し合うことによって自分の考えを出さない生徒がいなくなる。
- ・ばやらっとしている（曖昧な）アイテムであり、状況証拠がほとんどで、物的証拠がない。だから、子どもたちに多様に考えさせられる。推定無罪につながるではないか。

- ・今の資料は社会科なのか国語科なのか分からないほど文が長い。
社会科は非連続型資料（テキスト）、国語科は連続型資料（テキスト）
 - ・裁判員になった人のアンケートをとると、今は8割ほどの人がやってよかったと言っている。生徒がそう言えるように、裁判員をやった人の話を取り入れた授業をしたかった。
 - ・裁判員制度の意義として、国民全員が考えると世の中が変わるのだということをとらえさせたかった。
 - ・まとめが難しかったと思う。意義の意味を理解していないかもしれないので、課題の言葉を変えた方がよかったと思う。意義＝よい点と言っていたが、そればかりではないと思う。
 - ・自分たちがちゃんとやっていくなどの答えが出れば、課題に対する答えやねらいが達成されたと思う。
 - ・まとめの例の4つがよかった。その言葉に続けて書かせれば、まとめができない生徒にはまとめやすかったと思う。公正な裁判がなされるために裁判の大変さ、難しさも知る。
- (2) テーマ研究
- ・今回は、新しい研究主題を決定するために、各校の社会科の研究テーマを事前にまとめた資料を基にして話し合いをした。
- (3) 指導助言（多賀谷 雅人 指導主事）
- ① 社会科における言語活動の充実について
 - ・社会科の言語活動は資料を活用して説明、論述、議論する活動である。本時は、模擬裁判のシナリオの中にある事件に関する様々な証拠資料を基に議論が行われた。
 - ・議論が活発に行われる条件は、テーマと方法である。議論したくなるようなテーマができれば、半分以上成功したも同然である。議論の方法とは、バズセッション、パネルディスカッション、ディベート、自由討議など考えを相手に適切に伝える方法である。また、個→グループ→個→全体→個の流れで議論させたい。本時は全体の場での議論がなかったことが残念だった。
 - ② 生徒が思考するための資料は適切だったか
 - ・優れたシナリオを基によい議論が展開されたと感じた。反面、分量が多く、社会科の資料活用の技能が問われたのか、国語科の読解力が問われたのかが判然としなかった。証拠や供述を整理し、要点を構造化・図式化することが大切である。
 - ・思考を促すヒントとして、まとめの4つがよかった。参観者の参加もよかった。
 - ③ 学習意欲を刺激する課題提示であったか
 - ・問い（学習課題）を引き出す資料提示が大切である。導入部分のビデオが意欲を刺激した。
 - ④ 「まとめ方」について
 - ・本時は、文頭を示し、それに続けて書かせる方法であった。キーワードを使ってまとめさせる方法もある。その場合は、キーワードは出させたい言葉を出させるための語を設定する。

4 成果と課題

- (1) 成果
 - ・擬体体験が生徒の意欲を促し、議論から言語活動や課題解決を刺激することができた。
- (2) 課題
 - ・学習課題とめあての区別、資料の分かりやすさ、しゃべれない生徒への対応などの工夫。